

第9期吹田健やか年輪プラン策定にかかる 高齢者等の生活と健康に関する調査について

福祉部高齢福祉室 計画グループ
令和5年6月

調査の目的・概要等

▶ 目的

第9期計画の策定にあたり、今後の高齢者福祉サービスや健康づくりの方策を検討するために、日頃の生活や介護の状況、サービスの利用意向などの実態を把握する。

▶ 調査概要

2種類の調査を実施（基準日：令和4年12月31日）

実施期間：令和5年2月1日～令和5年2月15日

調査方法：郵送による配付・回収

	高齢者調査	要介護認定者調査
対象	65歳以上（要介護1～5を除く）から無作為抽出した3,000人	65歳以上で要介護1～5の認定を受けている人から無作為抽出した2,000人
有効回収数	1,744件	911件
有効回収率	58.1%	45.6%

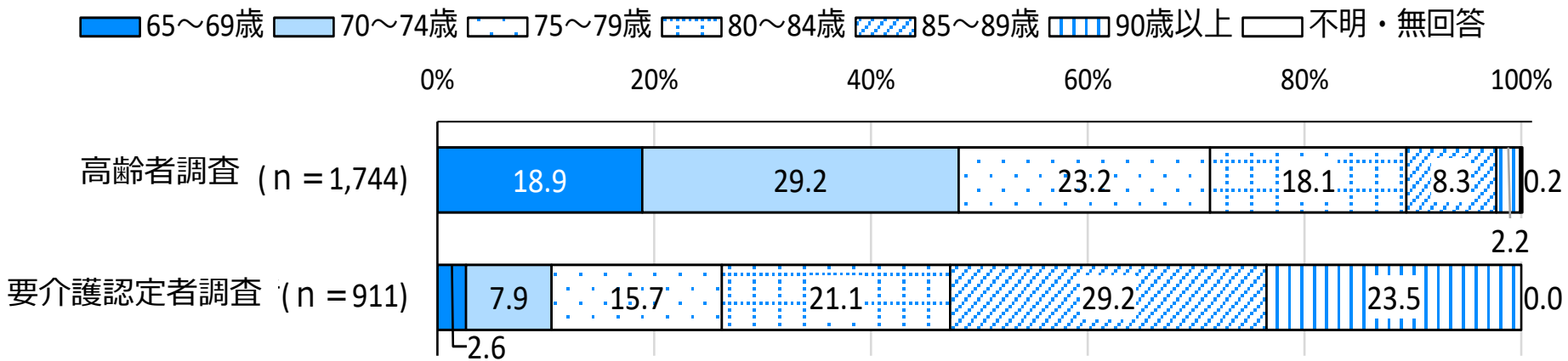
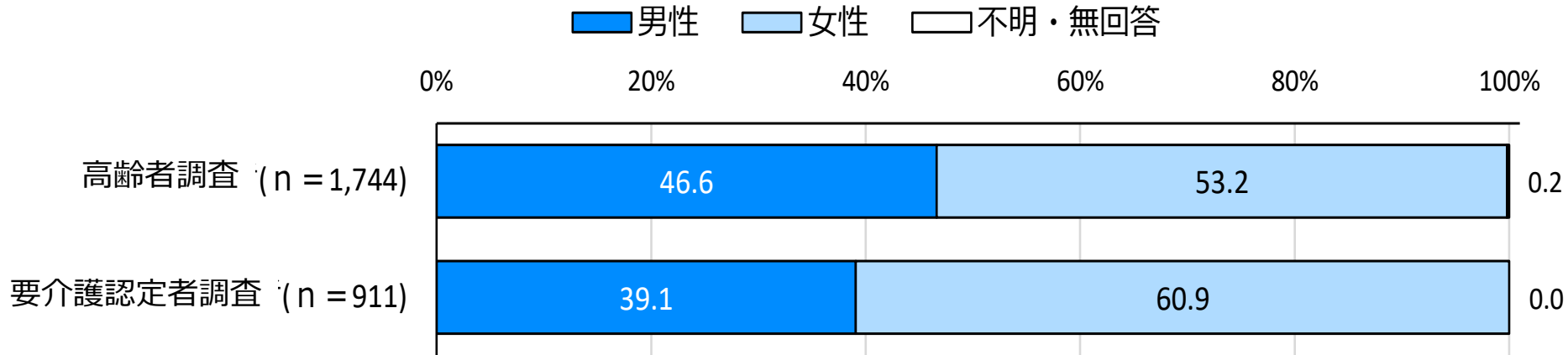
▶ その他

前回調査とは平成31年度に実施した同調査を指す。

結果数値（%）は小数点第2位を四捨五入しており、内訳の合計が100%にならないことがある。

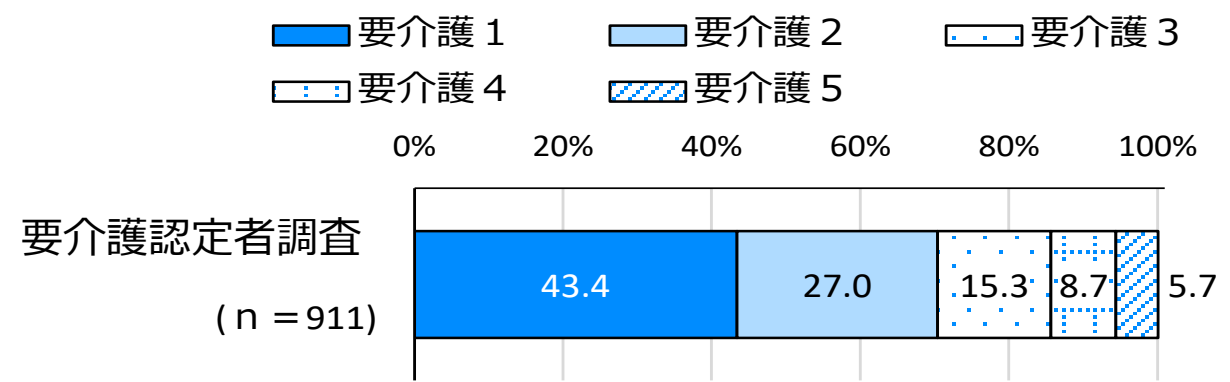
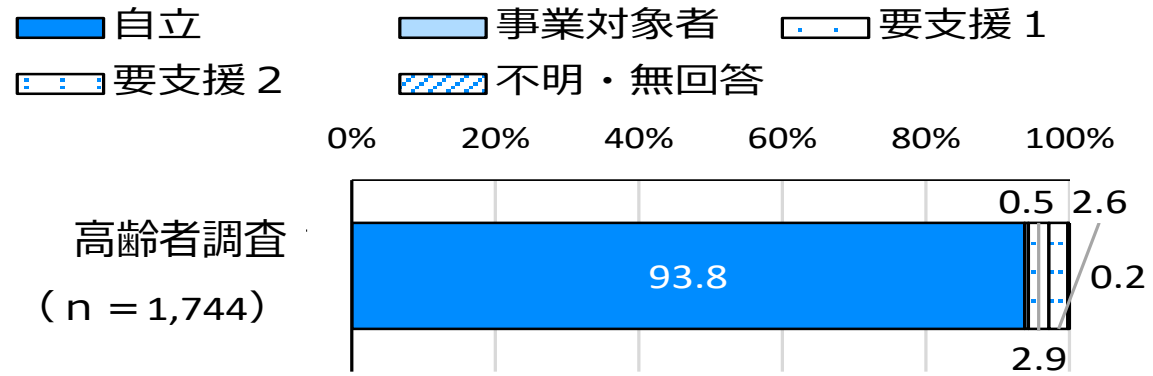
回答者の属性

(性別・年齢)



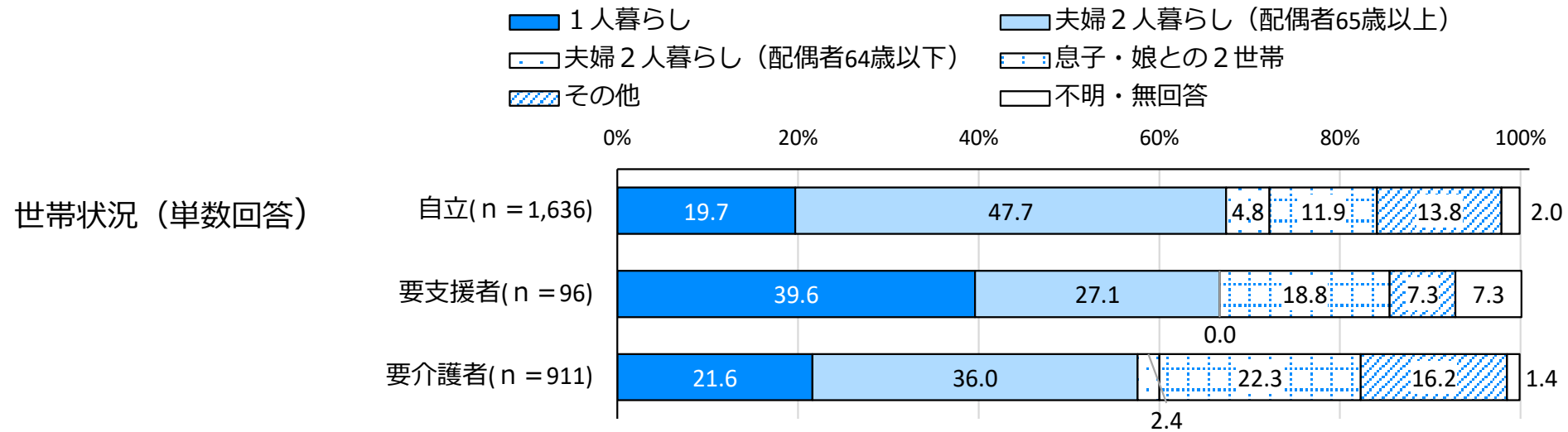
回答者の属性

(認定該当状況)



世帯の状況

- ▶ 世帯状況は、自立の人・要介護者は「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」、要支援者は「1人暮らし」が最も多い。地域別の高齢者のみ世帯は千里ニュータウン・万博・阪大地域が最も多い。
- ▶ 6割以上が高齢者のみの世帯となっている

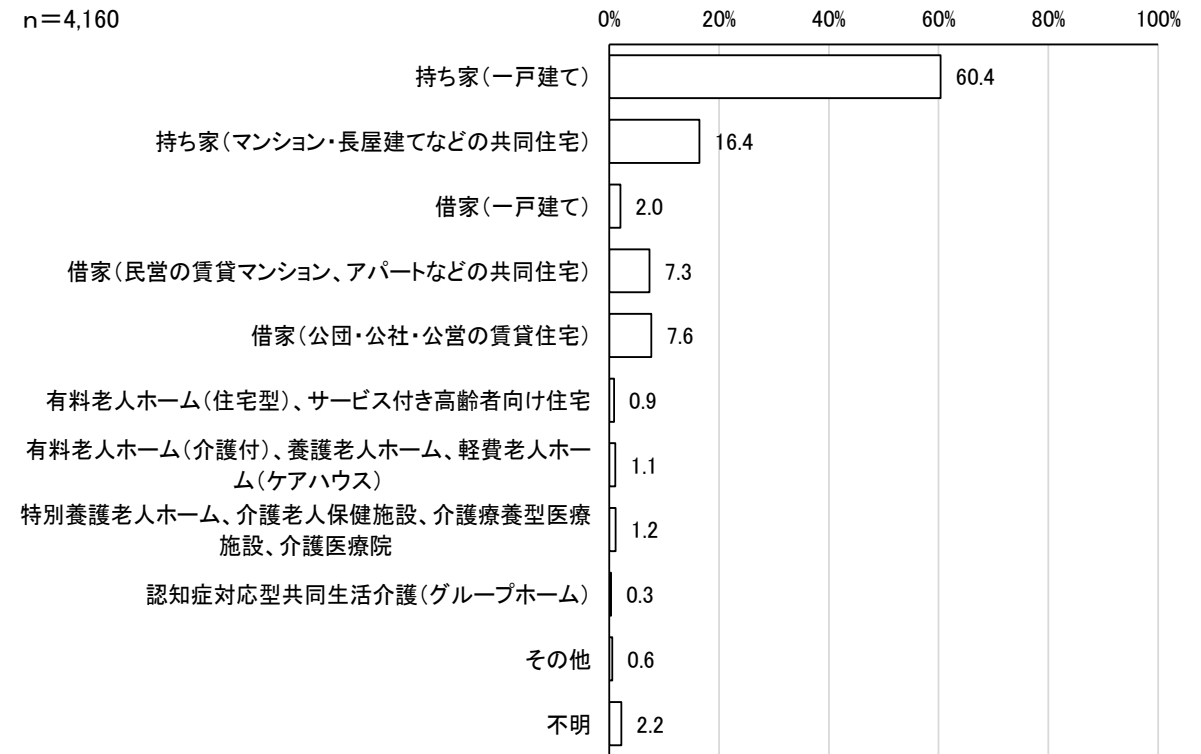
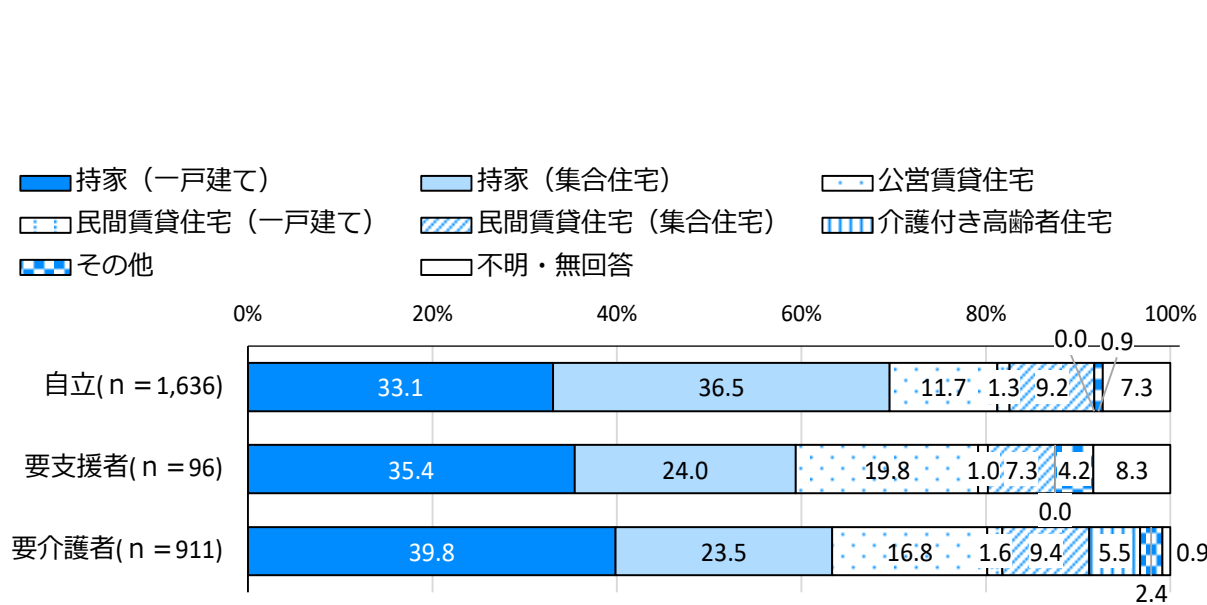


地域別高齢者のみ世帯 (1人暮らし・夫婦2人暮らしの計)

全体	J R以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
66.3%	66.0%	63.4%	62.3%	63.3%	64.7%	74.3%

住まいの状況

- ▶ 住まいの形態は、自立の人は「持家（集合住宅）」、要支援者・要介護者は「持家（一戸建て）」が最も多い。
- ▶ 大阪府調査では「持ち家（一戸建て）」が60.4%と、本市の要介護者と比べても20.6ポイント高い。

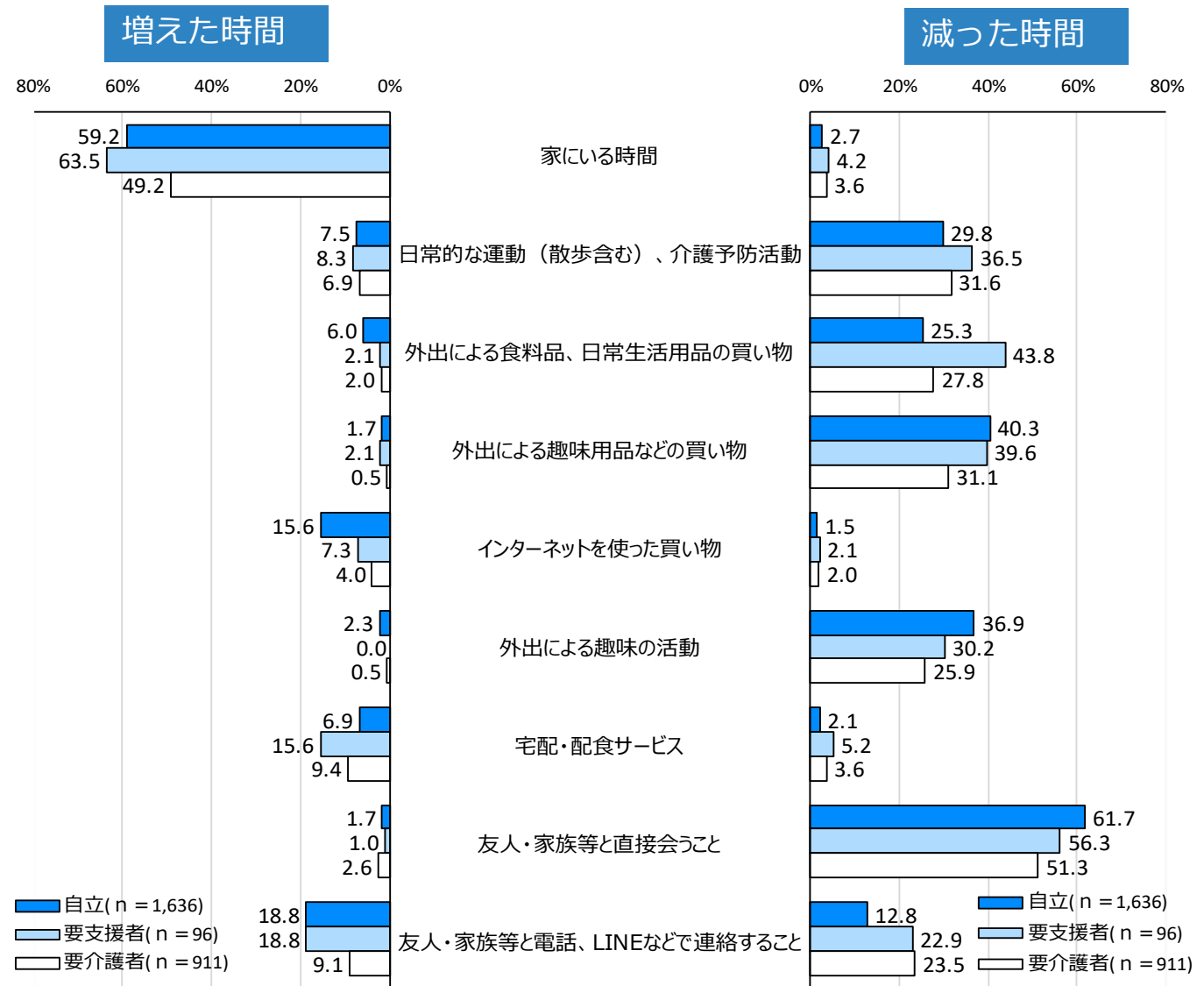


大阪府調査（※）の類似設問（参考）

（※）令和4年10月3日から31日までの間に行われた「第6回 高齢者の生活実態と介護サービス等に関する意識調査」対象者は府内全域の満65歳以上6,230人

新型コロナウイルス蔓延に伴う行動の変化

- ▶ 新型コロナウイルス蔓延に伴う行動の変化において「増えた時間」は、介護状態に関わらず「家にいる時間」が最も多く、要支援者は6割を超えている。
- ▶ 「減った時間」は、介護状態に関わらず「友人・家族等と直接会うこと」が最も多く、自立の人で6割を超えている。ほか、「外出による食料品、日常生活用品の買い物」は要支援者、「外出による趣味用品などの買い物」は自立の人で4割を超えている。

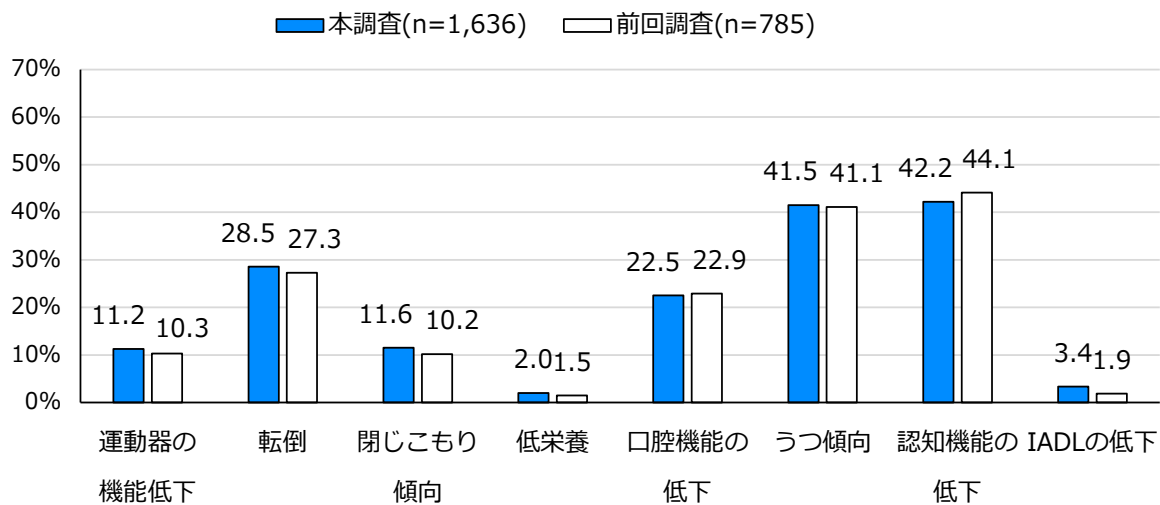


新型コロナウイルス蔓延に伴う活動・行動の変化 (各項目単数回答)

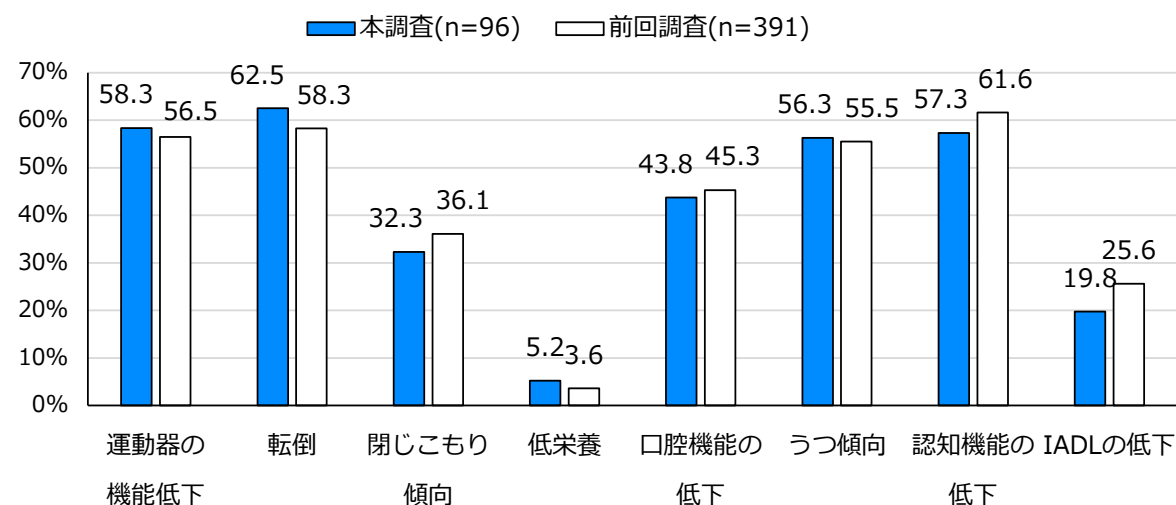
身体機能・リスク判定結果

調査結果 (ダイジェスト版より抜粋)

- ▶ 身体機能や認知機能等のリスク判定を行った結果、「リスクあり」の人は自立の人で「認知機能の低下」が42.2%で最も多く、次いで「うつ傾向」が41.5%、「転倒」が28.5%となっている。
- ▶ 要支援者のリスク判定結果は、「転倒」が62.5%で最も多く、次いで「運動器の機能低下」が58.3%、「認知機能の低下」が57.3%となっている。いずれも前回調査とほぼ同じ結果。



自立の人のリスク判定結果 (リスクありの人)

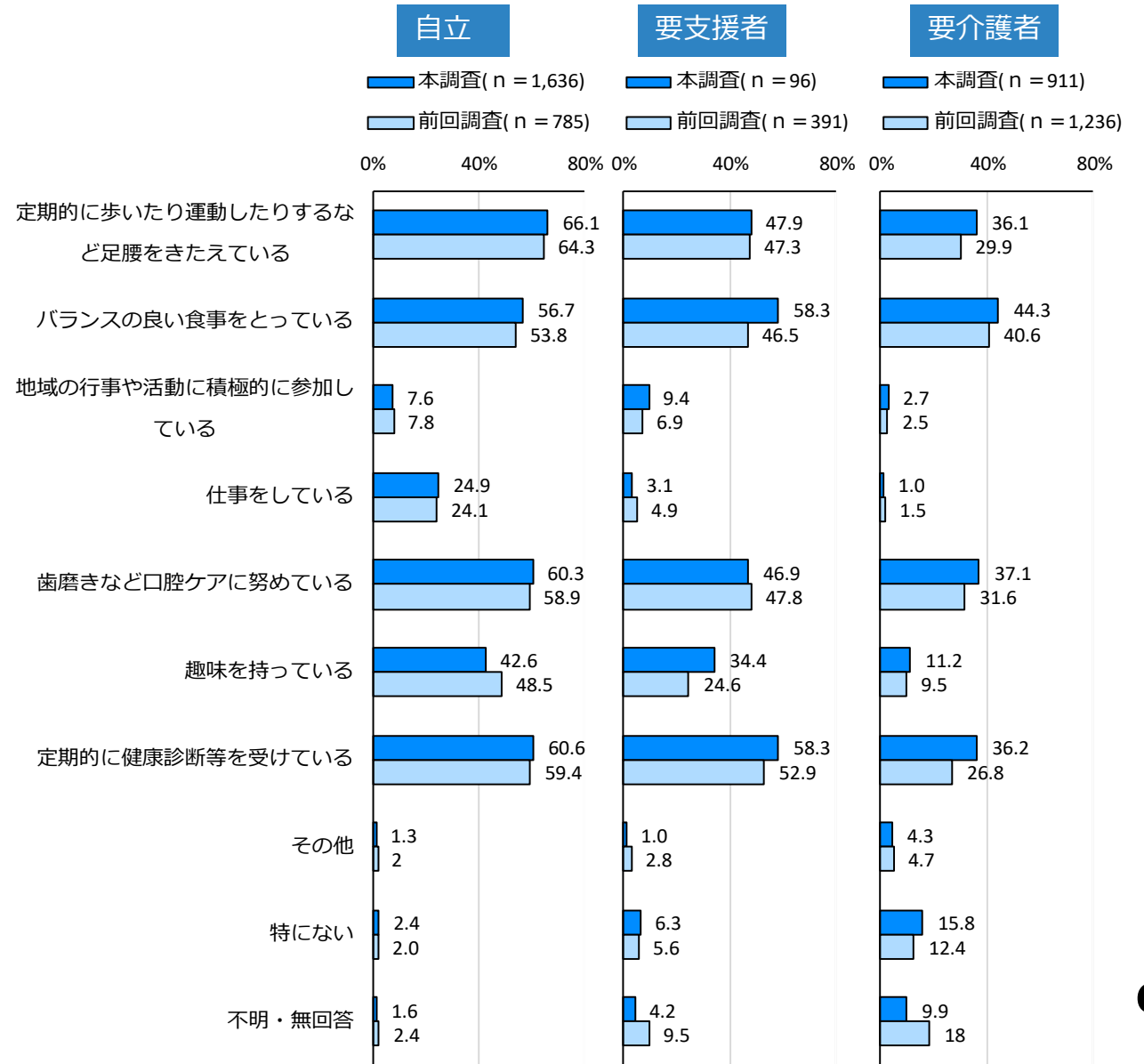


要支援の人のリスク判定結果 (リスクありの人)

健康・介護予防

調査結果 (ダイジェスト版より抜粋)

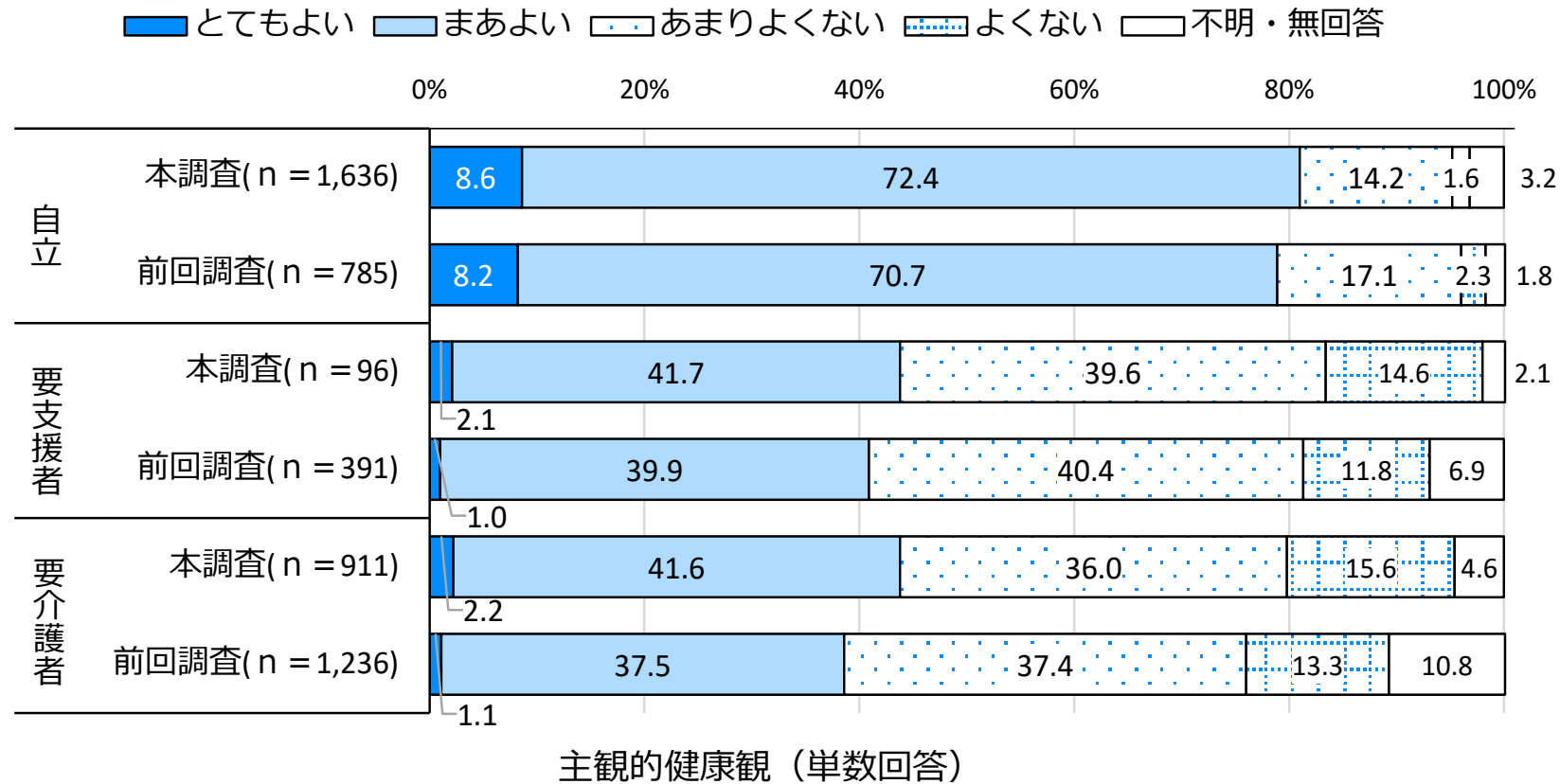
- ▶ 健康の保持・増進や介護予防で心がけていることは、自立の人は「定期的に歩いたり運動したりするなど足腰をきたえている」、要支援者は「バランスの良い食事をとっている」と「定期的に健康診断等を受けている」、要介護者は「バランスの良い食事をとっている」が最も多い。
- ▶ 要支援者で「バランスの良い食事をとっている」は前回調査から10ポイント以上増加。



健康の保持・増進や介護予防のために心がけていること (複数回答)

健康・介護予防

▶ 主観的健康観は、自立の人・要支援者・要介護者ともに「まあよい」が最も多くなっているが、要支援者・要介護者は自立の人より30ポイント以上低い。



- ▶ 幸福感と主観的健康感のクロス集計結果について、最も割合の多い幸福感の点数は、主観的健康感が「とてもよい」人は「10点」、「まあよい」人は「8点」、「あまりよくない」・「よくない」人は「5点」となっています。平均点はとてもよい人で8.61点、まあよい人で7.28点、あまりよくない人で5.83点、よくない人で5.16点と、主観的健康感がよい人のほうが点数が高くなっています。

幸福感と主観的健康感のクロス分析

		(n)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答・不明	平均点
主観的健康感	全体	1,744	0.1	0.5	0.6	1.4	3.0	17.5	8.9	17.7	24.8	10.4	10.0	5.1	7.11
	とてもよい	142	0.7	0.0	0.7	0.0	0.0	2.8	2.1	9.2	30.3	14.8	38.7	0.7	8.61
	まあよい	1,232	0.0	0.1	0.1	0.6	2.6	16.0	9.3	20.0	28.6	12.0	9.1	1.7	7.28
	あまりよくない	275	0.0	0.7	2.5	5.8	6.2	32.7	12.4	17.5	12.4	4.0	1.5	4.4	5.83
	よくない	40	2.5	12.5	2.5	2.5	7.5	35.0	7.5	5.0	7.5	5.0	7.5	5.0	5.16

単位 (%)

生きがい

調査結果（報告書本編より抜粋）

- ▶ 生きがいに繋がる行政の取組は、「趣味や教養のための講座・教室」が40.1%で最も多く、次いで「高齢者が自由に集まり、活動することができる場の提供」が39.8%。
- ▶ 65～74歳は「高齢者が自由に集まり、活動することができる場の提供」、75～84歳は「趣味や教養のための講座・教室」、85歳以上は「後期高齢者や独居高齢者等への安否確認などの声掛け」が最も多い。
- ▶ 「就労意欲のある高齢者への仕事のあっせん」が65～74歳で35.7%と他の年代に比べて多くなっている。

		(n)	高齢者が自由に集まり、活動することができる場の提供	高齢者による地域団体（自治会、町内会など）への活動補助	多世代交流のための場の提供	就労意欲のある高齢者への仕事のあっせん	趣味や教養のための講座・教室	敬老を祝うイベント	後期高齢者や独居高齢者等への安否確認などの声掛け	長寿を祝う祝状や祝金の贈呈	その他	行政の取組は必要ない	不明・無回答
	全体	1,744	39.8	15.0	16.6	25.9	40.1	8.1	32.6	9.1	2.2	3.2	14.9
年齢	65～74歳	838	46.8	15.3	22.4	35.7	46.1	6.1	31.7	7.3	2.3	3.7	9.9
	75～84歳	719	34.9	14.6	11.7	18.2	35.2	8.2	32.3	10.4	1.9	2.9	18.5
	85歳以上	183	26.8	14.8	9.3	11.5	32.2	16.4	37.7	11.5	2.7	2.2	23.5
認定状況	自立	1,636	40.6	15.1	17.0	26.7	40.5	7.8	32.2	8.7	2.1	3.4	14.1
	事業対象者【参考】	8	0.0	25.0	12.5	12.5	25.0	25.0	25.0	12.5	0.0	0.0	50.0
	要支援者	96	28.1	11.5	10.4	13.5	34.4	10.4	39.6	14.6	3.1	0.0	26.0

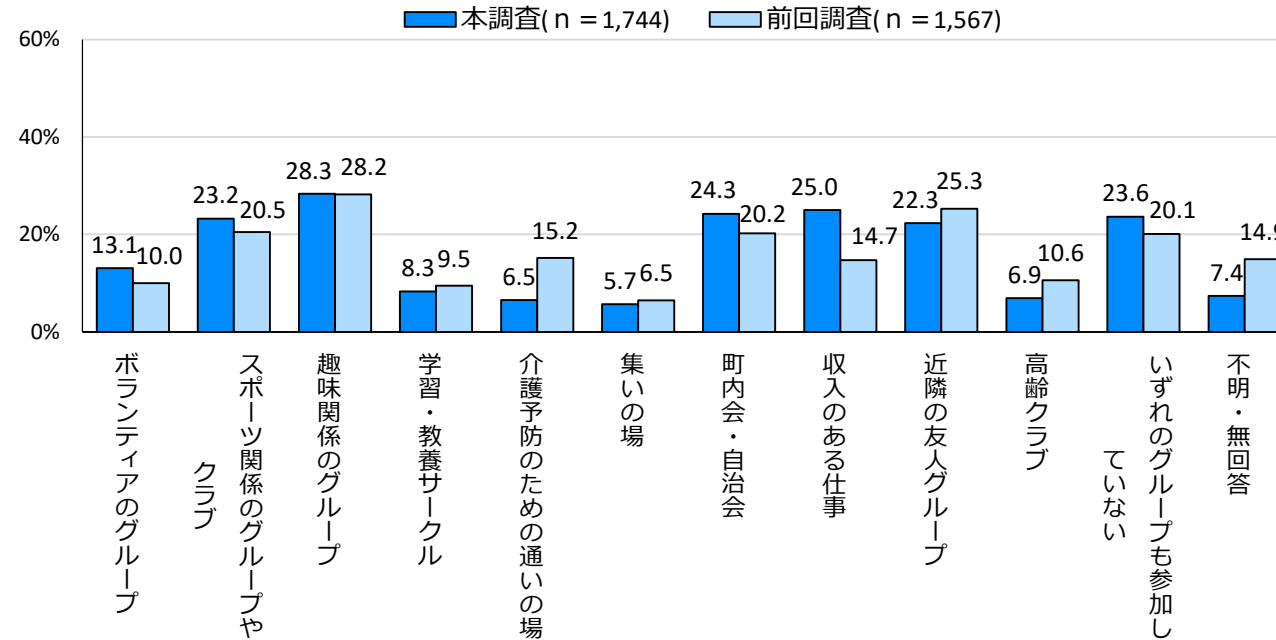
単位 (%)

高齢者の生きがいに繋がる行政の取組（複数回答）【高齢者調査】

地域活動

▶ 地域別になんらかのグループに参加している人は、自立の人は山田・千里丘、要支援者は千里ニュータウン・万博・阪大が最も多い。

参加している地域活動 (複数回答)
【高齢者調査】

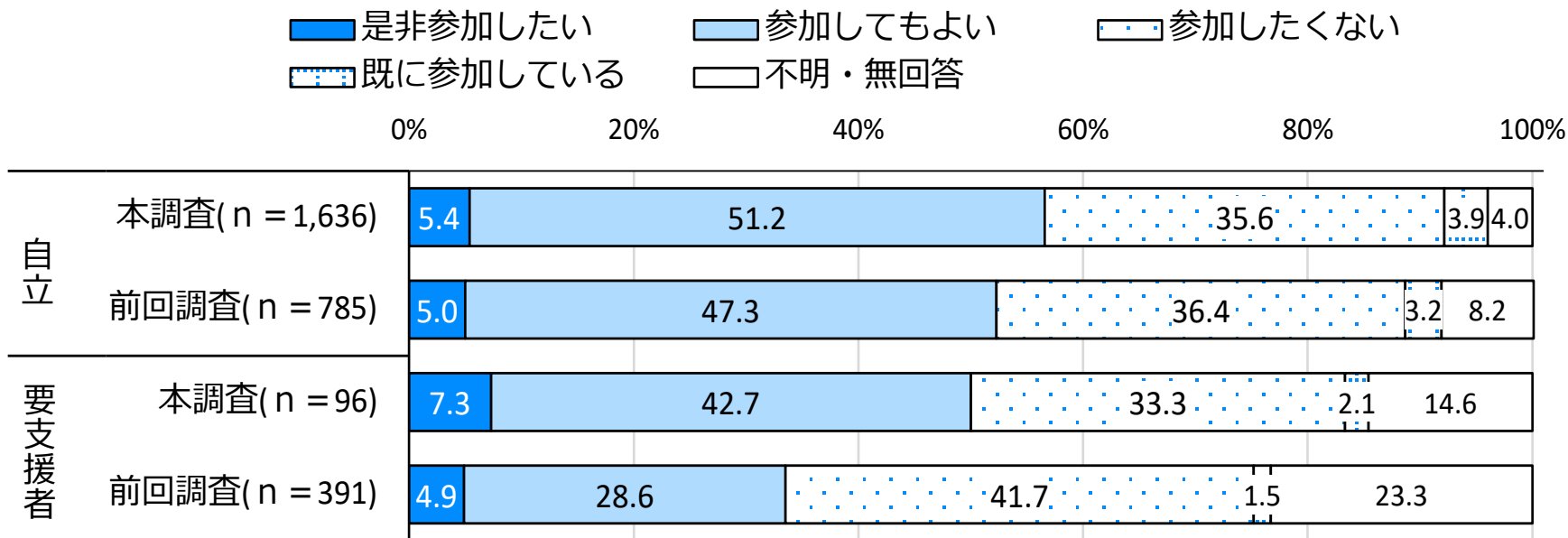


地域別なんらかのグループに参加している人の割合

	全体	J R以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里NT・万博・阪大
自立	69.7%	67.7%	66.1%	64.3%	70.9%	76.6%	66.3%
要支援	56.3%	57.1%	55.6%	50.0%	62.5%	44.0%	71.4%

地域活動

▶ いきいきした地域づくり活動に「参加者」としての参加意向は、自立の人・要支援者ともに「参加してもよい」が最も多い。要支援者の「参加してもよい」は前回調査から14.1ポイント増加。



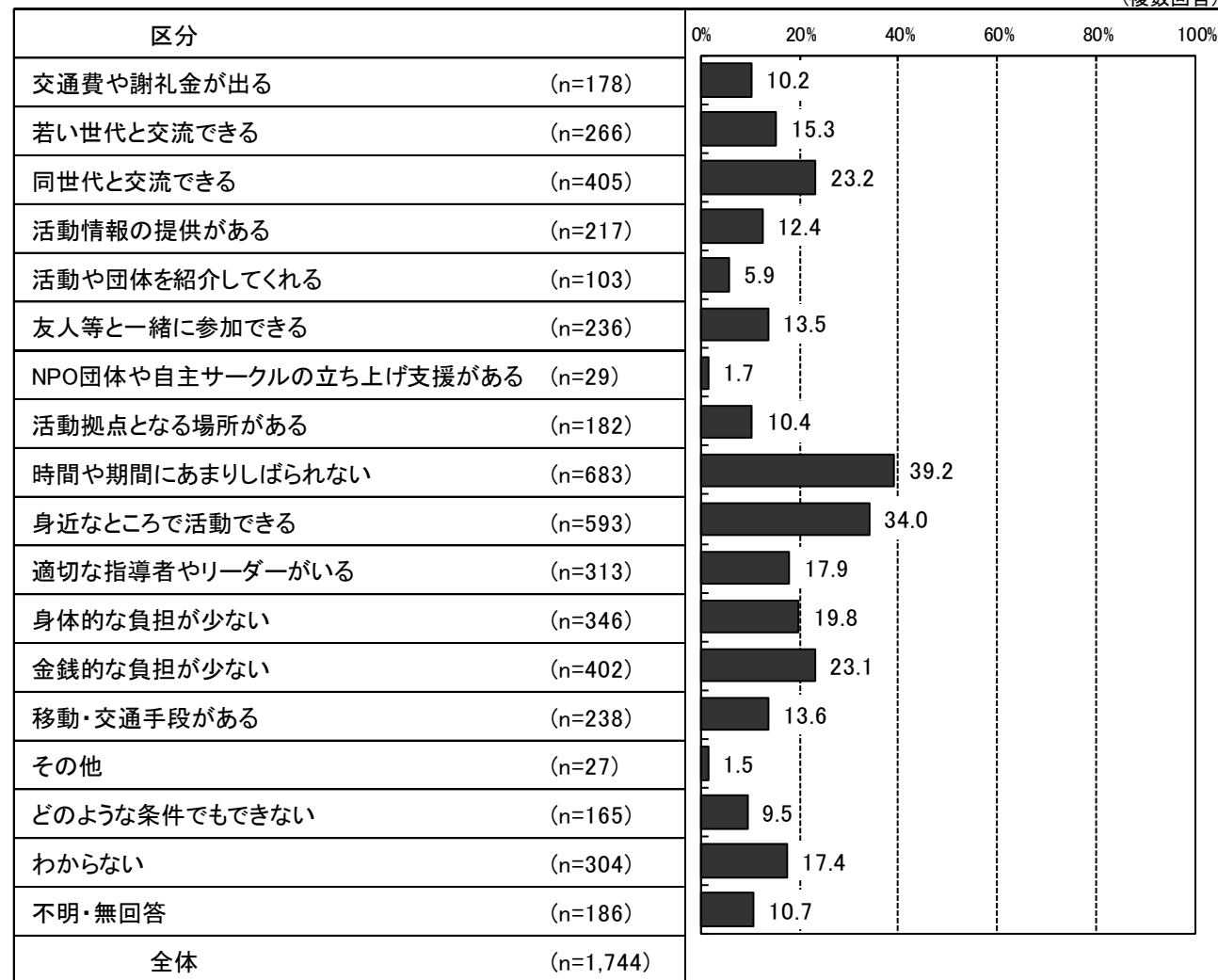
いきいきした地域づくり活動への「参加者」としての参加意向 (単数回答)

地域活動

調査結果（報告書本編より抜粋）

(複数回答)

▶ 地域活動に参加しやすい条件は、「時間や期間にあまりしぼられない」が39.2%で最も多く、次いで「身近なところで活動できる」が34.0%、「同世代と交流できる」が23.2%。

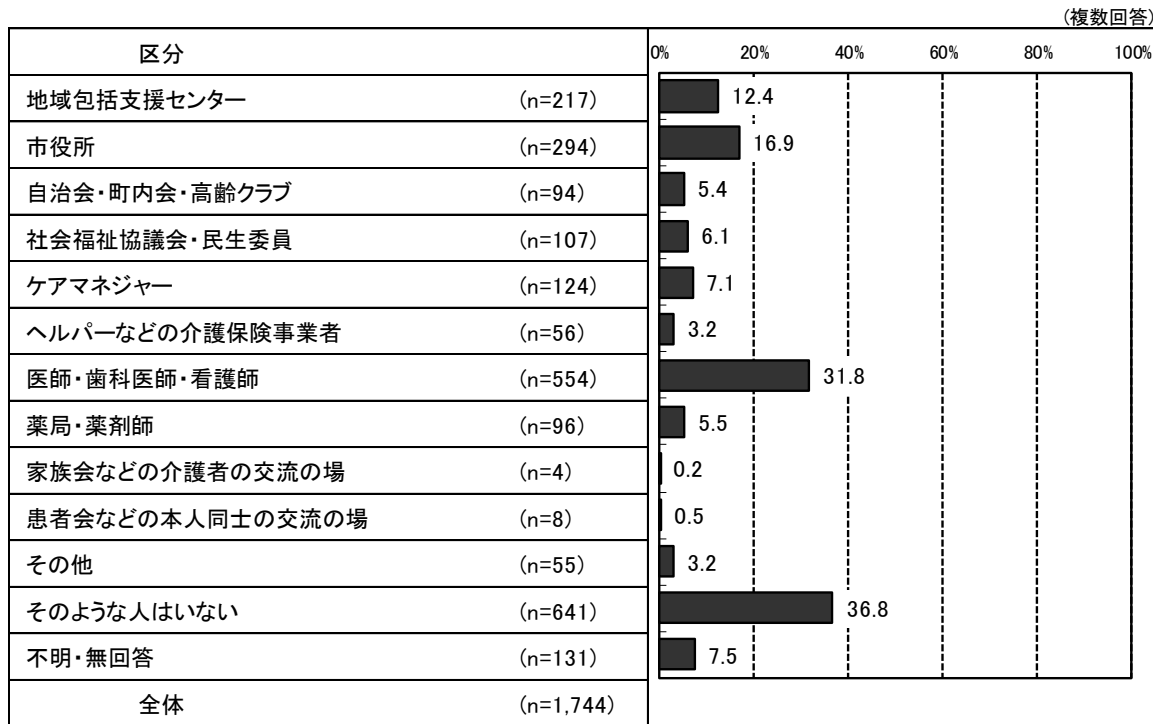


地域活動・ボランティア活動に参加しやすい条件
(複数回答) 【高齢者調査】

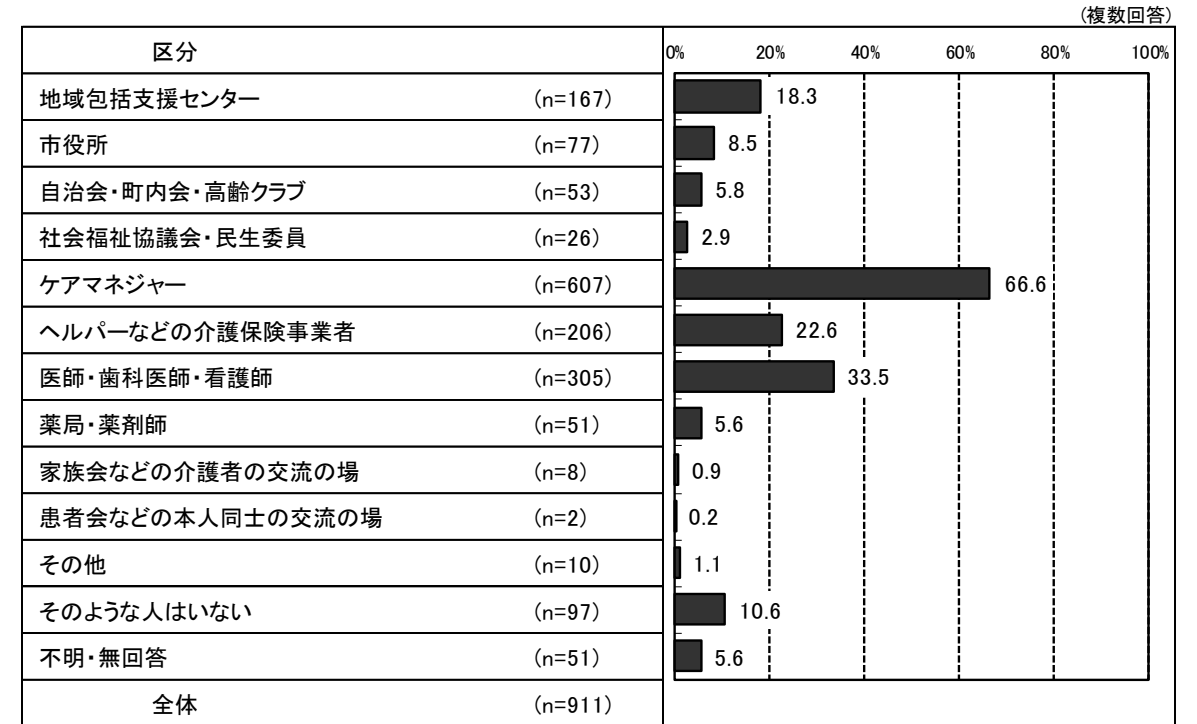
支え合い

調査結果（報告書本編より抜粋）

▶ 何かあった時に相談する相手について、自立・要支援者は「そのような人はいない」、要介護者は「ケアマネジャー」が最も多い。



高齢者調査

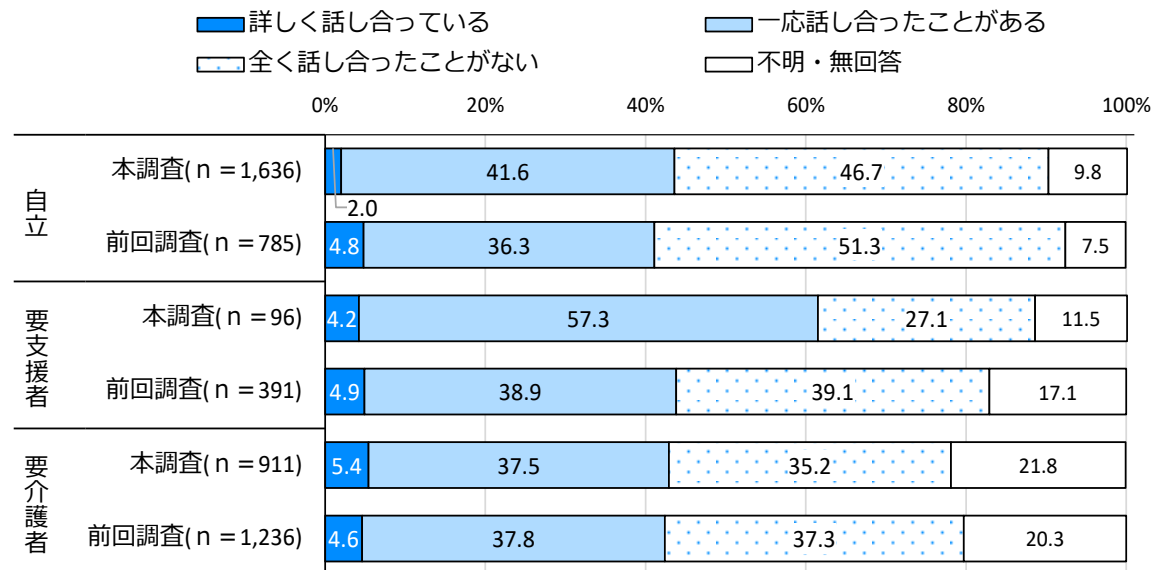
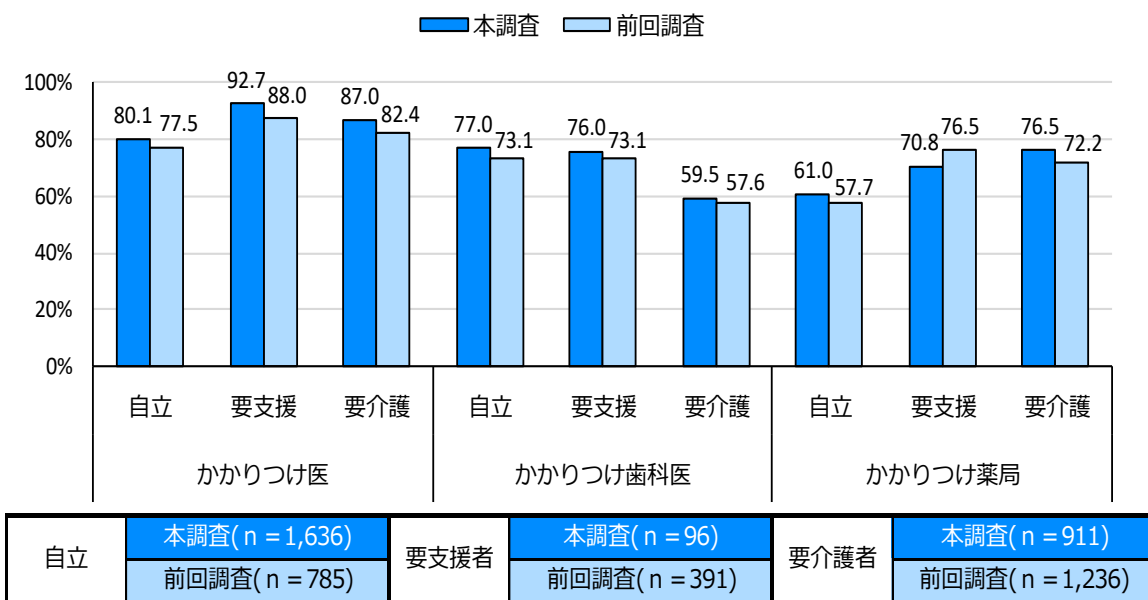


要介護認定者調査

家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手（複数回答）

在宅医療

- ▶ かかりつけ医・歯科医・薬局の有無について、要支援者のかかりつけ薬局を除き、いずれにおいても「いる」の割合は前回調査より1.9ポイント以上増加。
- ▶ 人生の最終段階における医療・療養について話し合ったことは、自立の人は「全く話し合ったことがない」、要支援者・要介護者は「一応話し合ったことがある」が最も多い。要支援者は「一応話し合ったことがある」が前回調査から18.4ポイント増加。



かかりつけ医・歯科医・薬局の有無 (各項目単数回答)

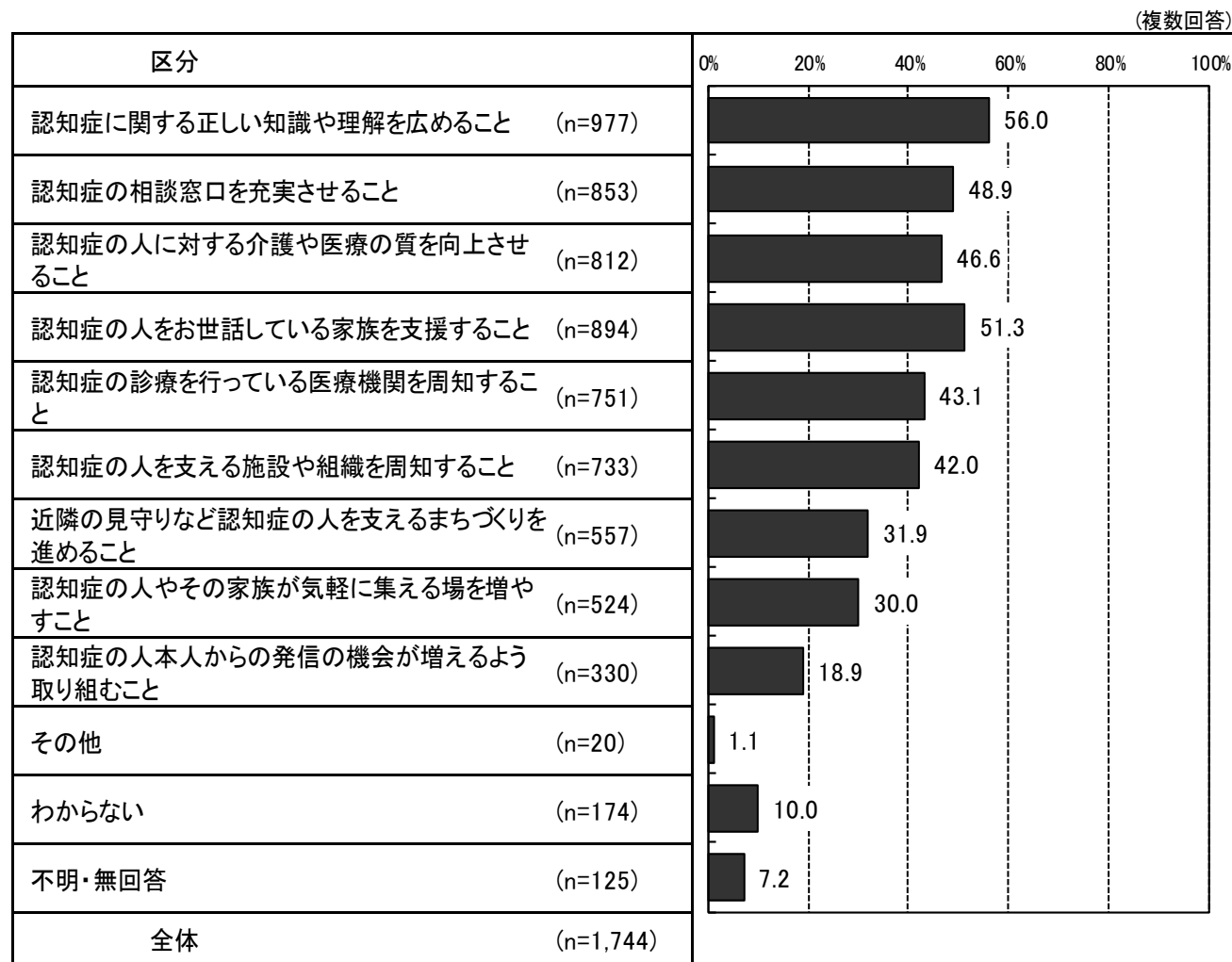
人生の最終段階における医療・療養について話し合ったことの有無 (単数回答)

認知症施策

調査結果 (報告書本編より抜粋)

▶ 必要だと思ふ認知症対策は、「認知症に関する正しい知識や理解を広めること」が56.0%で最も多く、次いで「認知症の人をお世話している家族を支援すること」が51.3%。

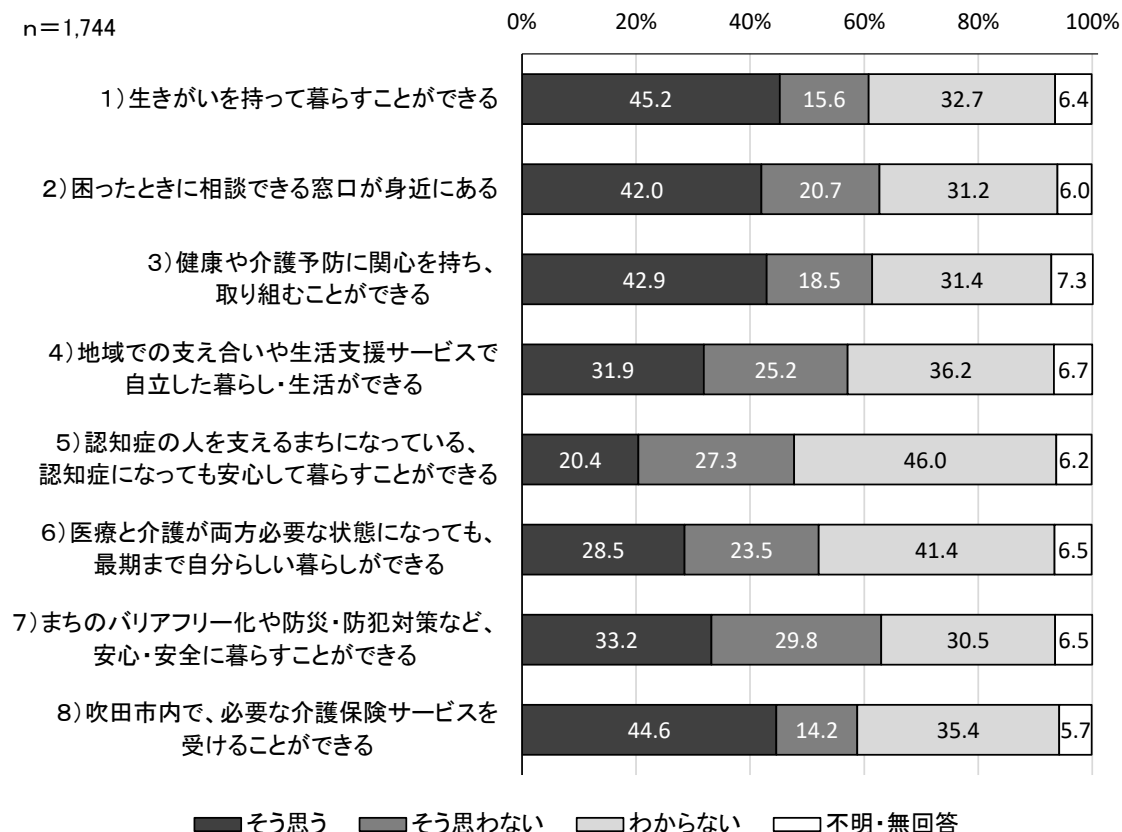
認知症の人が安心して暮らせるまちにするために必要だと思ふ対策 (複数回答)



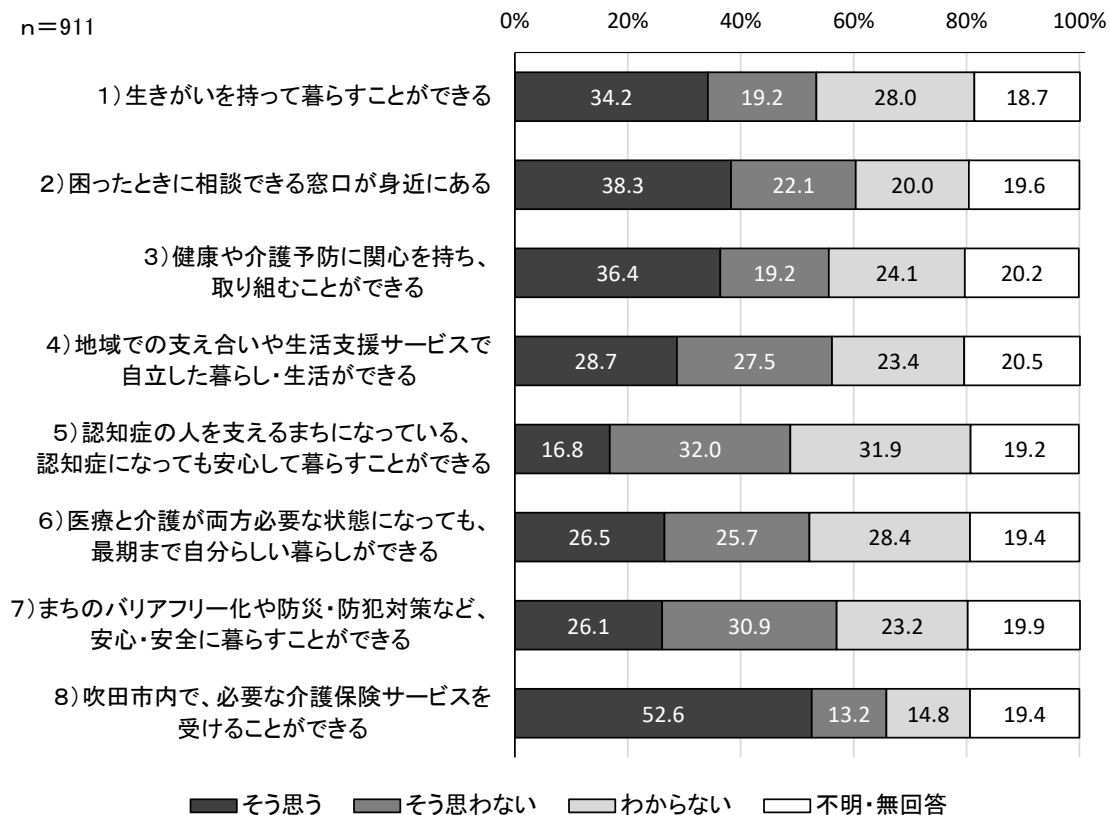
めざすまちの姿に対する評価

調査結果（報告書ダイジェスト版より抜粋）

▶ 「そう思う」が最も少ないのは、高齢者調査・要介護認定者調査ともに「5）認知症の人を支えるまちになっている、認知症になっても安心して暮らすことができる」。



高齢者調査



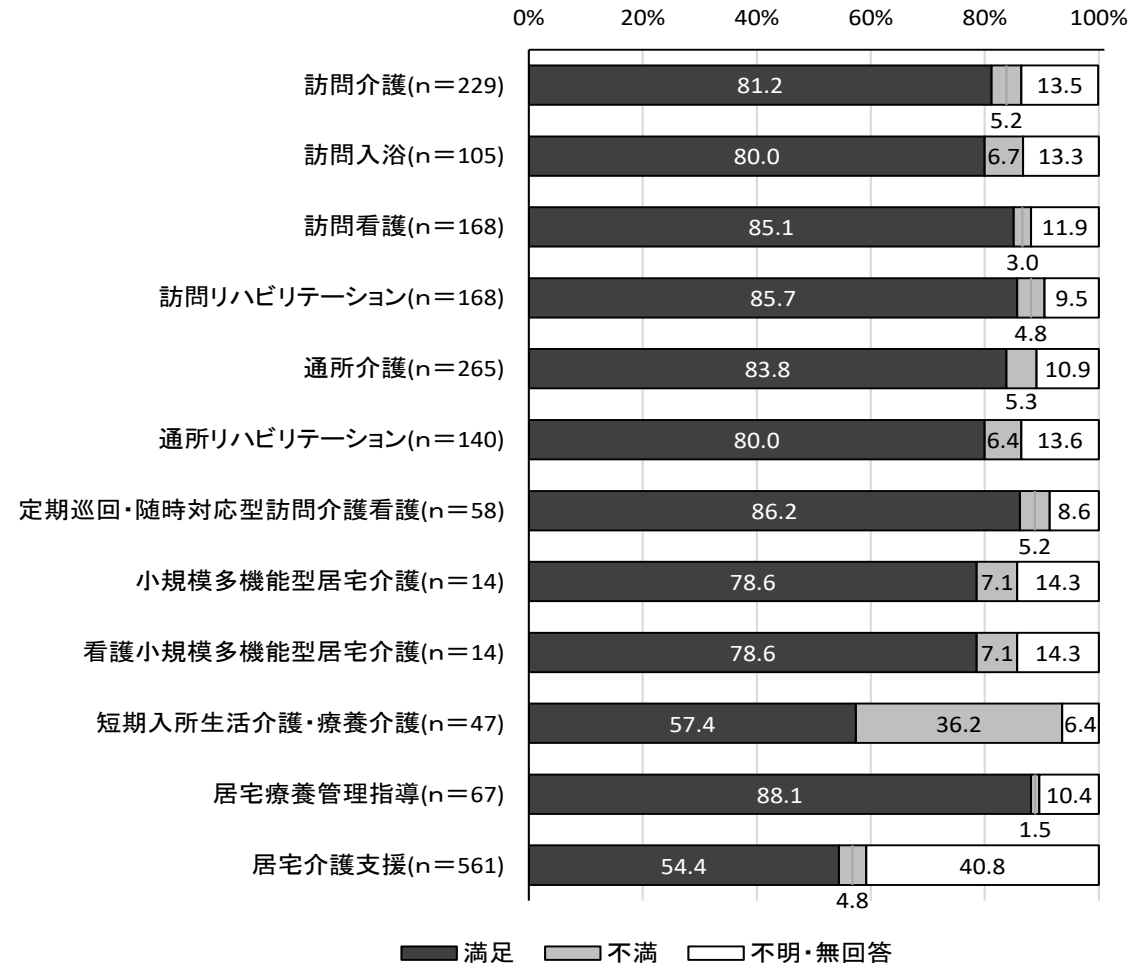
要介護認定者調査

めざすまちの姿に対する評価（一覧）

介護保険サービス

調査結果（報告書本編より抜粋）

▶ 介護保険サービスの満足度は、「居宅療養管理指導」が88.1%で最も多く、次いで「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が86.2%、「訪問リハビリテーション」が85.7%。

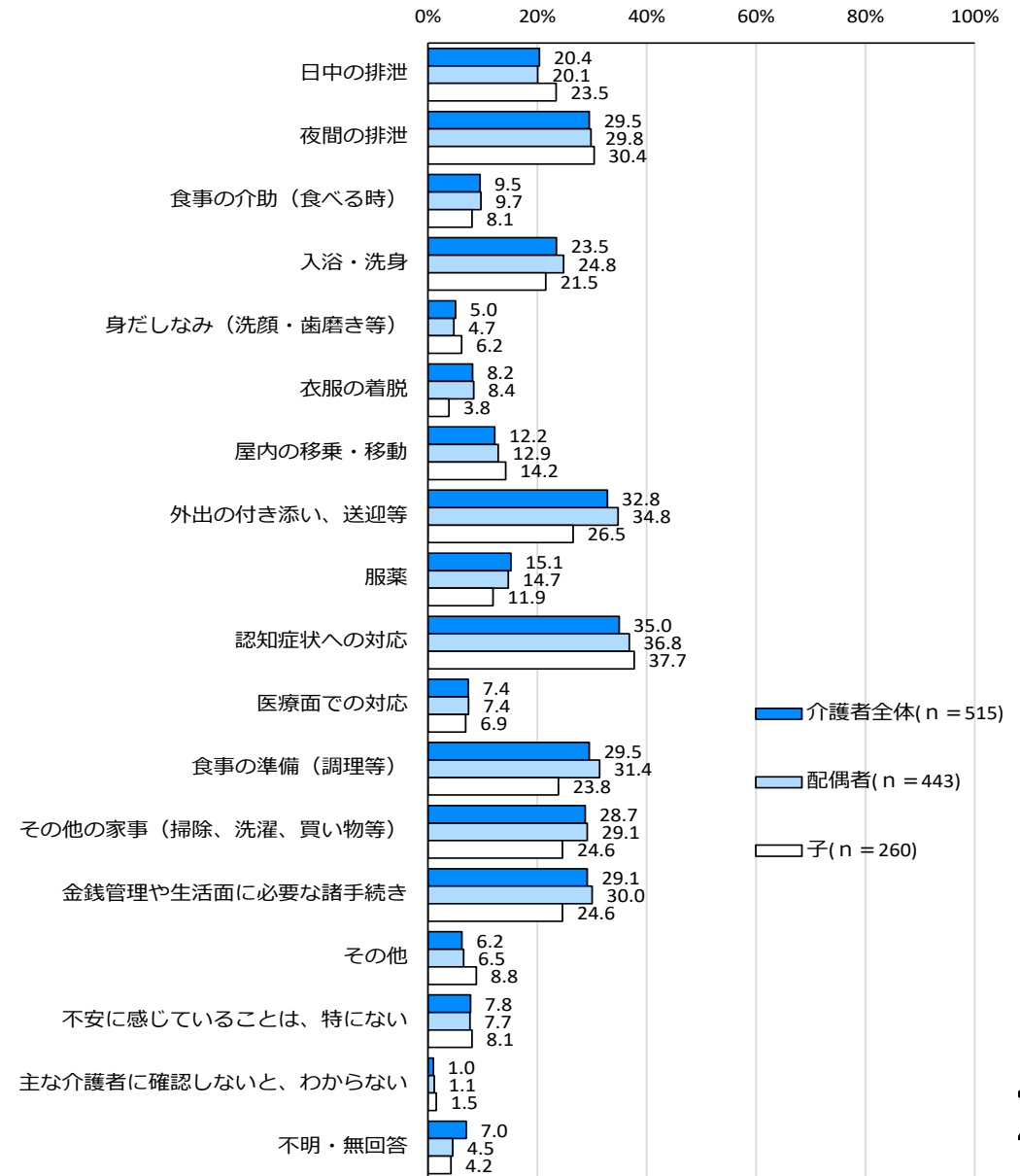


介護保険サービスごとの満足度（一覧）

介護者の状況

- ▶ 主な介護者が不安に感じる介護の内容は、「認知症状への対応」が35.0%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が32.8%、「夜間の排泄」「食事の準備（調理等）」がともに29.5%。
- ▶ 主な介護者別にみると、配偶者・子ともに「認知症状への対応」が最も多く、次いで配偶者は「外出の付き添い、送迎等」、子は「夜間の排泄」。

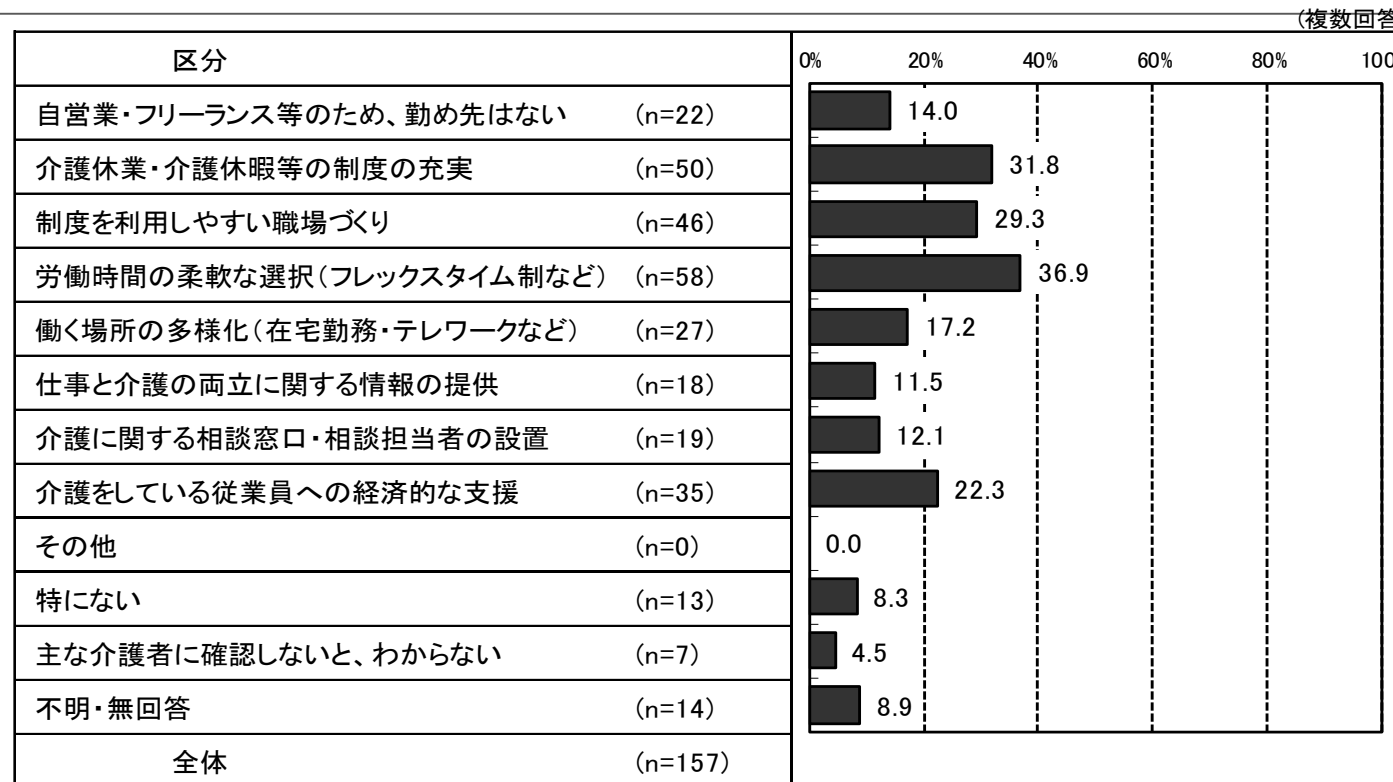
主な介護者が不安に感じる介護の内容 (複数回答)



介護者の状況

調査結果（報告書本編より抜粋）

- ▶ 主な介護者が、仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援については、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が36.9%で最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が31.8%、「制度を利用しやすい職場づくり」が29.3%となっている。

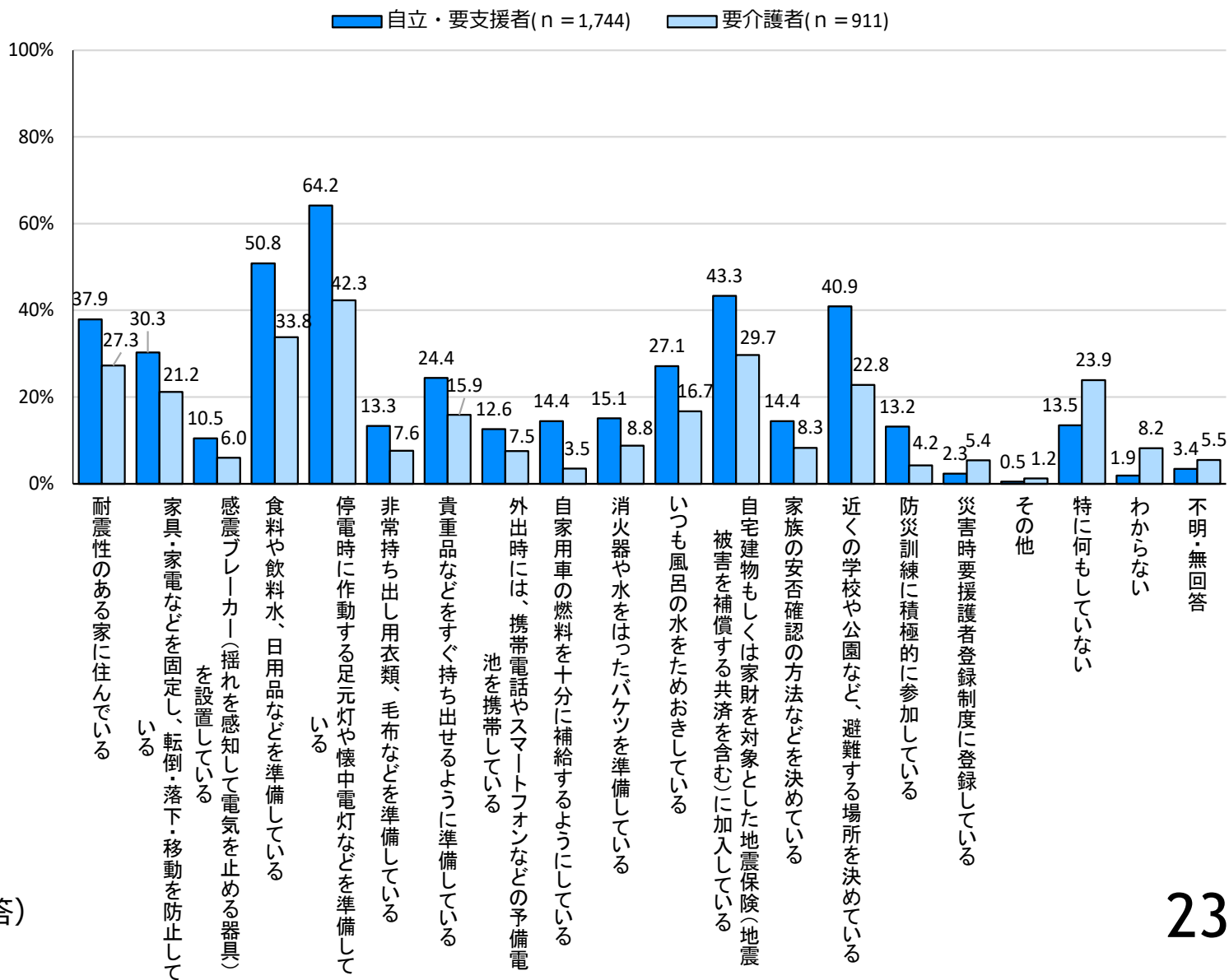


仕事と介護の両立に必要な勤め先からの支援

防災

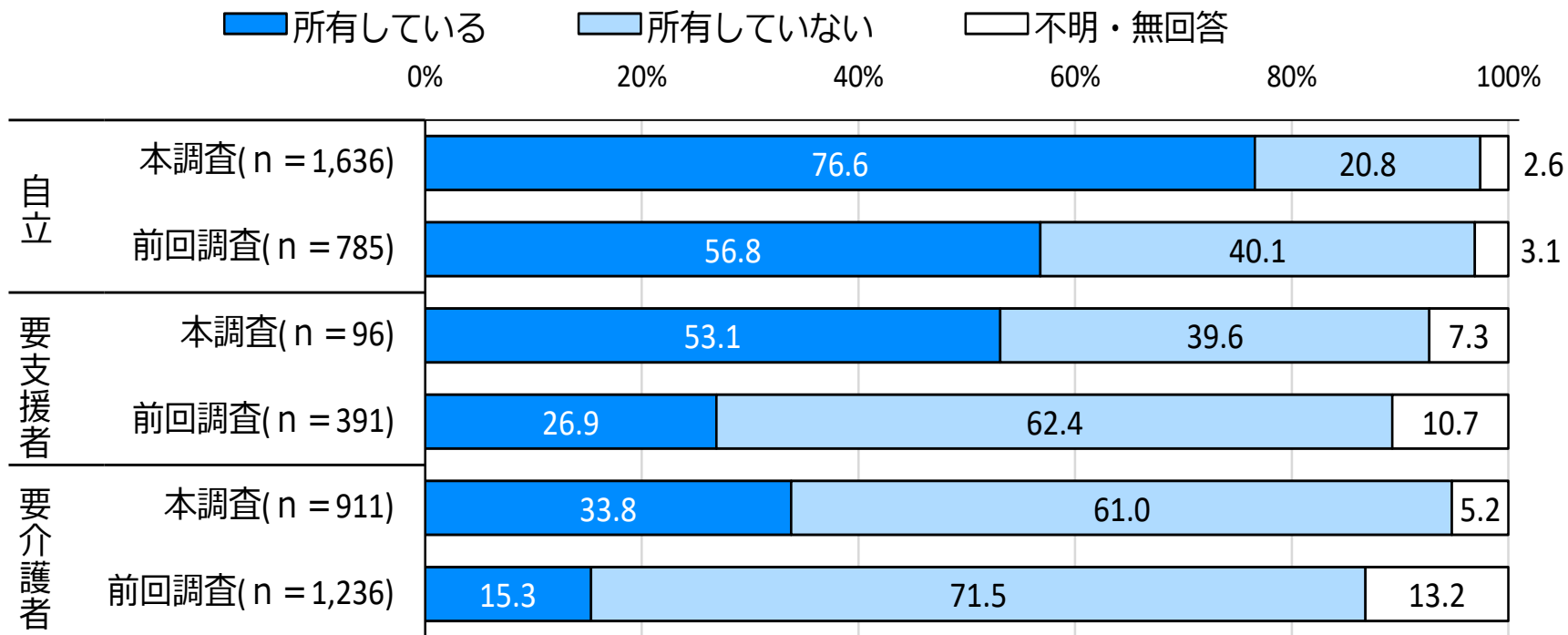
▶ 災害に備えた対策は、自立・要支援者、要介護者ともに「停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの準備している」が最も多く、次いで「食料や飲料水、日用品などの準備している」。ほとんどの項目で自立・要支援者より要介護者の割合が少ない。

災害に備えた対策 (複数回答)



情報収集

▶ スマートフォンの所有状況は、自立の人・要支援者は「所有している」、要介護者は「所有していない」が最も多い。全体的に「所有している」は増加。



スマートフォンの所有状況 (単数回答)